

時間は平等なのか？

米森 寿美男



最近、昔は一年が長かったとか、年取ると短く感じるなど、年齢に対する恐怖感が少しずつ高まって来るように感じる。健康寿命が七十二歳であるとすれば、残された時間は長くはないので、今出来ることをしっかりとやり切ろうと思う。

孫の一年と比べながら、自分の七〇分の一年のトピックスを書いてみる。

一、孫の一歳の誕生日

二人目の孫は七月三〇日で一歳の誕生日を迎えた。やっと一年過ぎたところであるが、毎日のように接していると凄い成長を見せてくれるのが楽しみである。昨年生まれて、あ

んなに小さかったのに身長は一・五倍に、体重は二・五倍になるなど、成長著しいところである。今はよちよちと歩けるまでになってくれたが、あんなに小さかったのに笑ったとか、泣いたとか、ごろごろが、はいはいが出来たとか、掴まり立ちが、三步あるいたとか、本当にこの一年間のその一瞬に感動と笑いを与えてくれている。

この期間に同じ時間を経験しているのであるが、孫の成長は凄いと思うことばかりである。

這えば立て、立てば歩めの親心（祖父心）とは、良く言ったものだと感じるばかりである。

二、農業の一年間

晴耕雨読とは、のんびり聞こえるが、雨が続きと心配になり、晴れが続くとやる事がいっぱい出てきて困るのが農業かなと思う。

さて、自分の一年間はどうかであったかと振り返ってみると、農業では失敗ばかりで、昨年の夏に蒔いた蕎麦は秋に収穫したが、思っていたのと違って半分も穫れなかった。今年の春の小麦に至っては酷い状態であり、しっかりとした準備が必要であると教えられ、一年に一回しか植えることができないので農業は本当に難しいと思う。



桜の観音が池で孫と筆者

他の野菜は、春先から、夏にかけて色々な種類を収穫出来たのだが、水やりや肥料やりが大変である。形のいい野菜を買った方が安くつくのではと考える。しかし、形は悪くても無農薬で作ったものは、安心して食べる事ができるということが最高の瞬間である。

三、念願の出雲大社へ、足立美術館と石見銀山の旅（十一月七日〜九日）

長年の懸案事項を片付けようと山口県から島根県、鳥取県への旅を企画し、女房殿のご機嫌を伺いつつ旅を楽しんだ。山口市がニューヨークタイムズ紙の「二〇二四年に行くべき五二カ所」に選ばれる前ではあったが、それ以前にちようと訪れることができて本当に良かった。ススキが原の秋吉台を巡り、BSで放送された火野正平さんが自転車旅で訪れたきれいな水が自噴する「別府弁天池」を訪れ、夜は湯田温泉に浸り、ゆつくりと泊



きれいな水が自噴する別府弁天池

まることができた。二日目は石見銀山の古い町並みを巡り、念願の出雲大社へ、連れ添って四〇年となる女房殿に感謝を込めてお参りを果たすことができた。宍道湖畔に泊まり、三日目は境港の水木しげるロードで鬼太郎の世界を満喫して、素晴らしい庭園を見せる足立美術館へ行つて大いに感動させてもらった。

帰りに瑠璃光寺の五重塔を観に行つたが何と工事中であり、二〇二七年まですっぽりとシートに覆われているとのこと、本当に残念だった。

四、入来の初日の出（六年一月一日）

入来に来て三〇年経つたが、桜島が見えるところがあるときつま町の先輩から教えられて二〇年ぐらい過ぎ、愛宕山ビスタパークには何回も登つたことがあったのに桜島が見えるとは知らなかった。今年の初日の出を拝みに元旦に娘達と登つて、人の多さにびっくりしてしまった。初日の出が見える方向の右端に桜島が見えていた。いつも自分たちが住んでいる反対側を見下ろしてばかりいたので、そこから桜島が見えることを知らなかった。初日の出と桜島は感動を与えてくれた。愛宕ビスタパークから入来の街並みを見下ろすと心が癒されるのは間違いない。



愛宕ビスターパークからの
初日の出と桜島

五、大学時代の同級生との再会（四月

六日～七日）

この四月に大学の教授をやっていた友達が退官するということで、その退官式に招かれて上京した。ちょうど桜の時期で東京駅に降り立ち、皇居を千鳥ヶ淵に向かって歩き、お堀の桜を満喫し、お茶の水方面に向かって歩いていくと昔懐かしい共立女子大学の講堂前に差し掛かり、ちょうど共立女子大学付属

中学校・高校の入学式が行われているところで賑やかだった。ここは学生時代に「かぐや姫」の解散コンサートを観に来たところだなぁと懐かしく、これから会う同級生の一人と一緒に来たなぁと涙が出そうになった。

大学の記念館で退官祝いが盛大に行われる中で、同級生の六人は五〇年前、まだ十八歳の頃に田舎から出て来て初めての出会いを果たし、仲良くなり元気に今を迎えて再会できたことに歓喜した。学生時代に何を学んだかは別として、麻雀ばかりやっていたなぁと懐かしく思うところである。このメンバーで次はいつ再会出来るだろうかと寂しく思うばかりである。翌日は、新宿御苑に桜を見に行ったが、早い時間に入園したのでゆっくりと桜を觀賞出来て良かった。三〇分遅れたら入場規制になって見ることができなかったと思うとラッキーであり、今を見頃とばかりにソ

メイヨシノが満開で、すでにボタン桜も咲いていた。昔二回ほど「桜を見る会」に招待いただいたことを懐かしく思いながら園内を散策させていただいた。

六、古希の同窓会（五月四日）

中学校の同窓会を伊佐市のカフェ「和」で開催し、一八名が集まり、先生まで参加してくれて大成功だった。楽しい時間が戻ってき



退任式での同級生との再会

たようで懐かしいメンバーとの再会は、本当に嬉しい時間となった。三年程前にUターンして古民家を買ひ、コツコツとリフォームしながらカフェをオープンして、田舎に人が集まれる場所を提供したいと道楽で始めたものことであつたが、我々同級生が集まれる場所を提供してくれたことに感謝・感謝である。

七、一年の短さ

思い出深いトピックスを並べてきたが、これでも日々多くの出来事に遭遇しながら、まだまだ成長していることを感じている。近親者との離別や誰かの入院話など、会うと病氣や薬の話ばかりになるのだが、本当に一年の過ぎるのが早くなったと思う。色々とやるべきことが増えたので、あつた言う間に過ぎ去って行くのだろうか。孫を抱きながら、もう少し元気になりたいなあと感じるこの頃である。

（元入来郵便局長）